令和3年度　学校自己評価及び学校関係者評価表　　武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校

経営理念	小中9年間を通し「値・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る 〇確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランス良く身に付けた生徒 〇生徒を温かく見守り、「主体的・対話的で深い学び」で学力を伸ばす教師 〇コミュニティスクールの機能を生かして、保護者・地域と情報や理念を共有して小中一貫教育を進める学校

【学校運営協議会・会長】　椎野　芳摩

学校運営協議会（学校評価分）第１回　4月27日（火）
第２回　11月16日（火）
第３回　3月 1日（火）

	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価 目標値 9月達成値	12月達成値	最終評価 達成度	評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	学校関係者評価 意　見	評価点 （4点満点）
確かな学力の向上	【中期】 基礎・基本の学力の定着を図る 【短期】 授業力を向上させ分かる授業を行う	・家庭学習ノートで家庭学習の習慣を定着させる。 ・ICT機器及び一人一台端末の活用により、学習に主体的に取り組む態度を養う。 ・新学習指導要領に示された主体的・対話的な深い学びを意識した授業改善を小中合同で行う。 ・小学校とブリッジプログラムを推進し、生徒のつまずきに対応する。	・家庭学習ノート提出率調査 ・教師の自己評価 ・生徒の学習意欲に関する調査	80% 74	80	77	B	家庭学習ノートの活用について、特に一年生で重点的に指導することで、学習に対する意識付けはできたと考える。 コロナ禍で制限がある中ではあるが、方法を工夫して話合い活動を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組み、一定の効果はあったものと考える。 小学校とのブリッジプログラムは、安全かつ効果的な方法を工夫し、更なる推進を進めていく必要がある。	年度当初に、家庭学習ノートの効果的な活用を図るための指導を各学級で行い、計画的に学習に取り組む態度を育む。 学習意欲を喚起する教材・教具、指導法の工夫を行い、生徒の関心・意欲を引き出す指導の充実を継続する。 また、生徒に見える形での評価の充実を図り、学習へのつまずきの解消を図っていく。	基礎力アップ講座はよく行っていた。 自分なりの家庭学習の定着ができるとよい。	3.0
	【中期】 基礎・基本の学力の定着を図る 【短期】 文章に親しみ読み取る力を伸ばす	・スペリングコンテストや漢字テストを継続的に取り組み、定着が図れるよう行う。 ・朝の読書を通じて読書習慣を定着させる。 ・図書館を活用し、司書連携して本への興味・関心を高め、読書量を増やす。	・スペリングコンテストの上位得点者の比率 ・教師の自己評価 ・図書室利用調査	80% 70	93	82	A	スペリングコンテスト、漢字テスト及び数学の授業始めのテスト等、小テストを定期的に実施したことで、生徒への基礎的・基本的な学力の定着及び学習習慣の定着について一定の成果が見られた。朝読書は完全に定着したが、図書室の活用率はもっと上げる必要がある。	各教科における小テストの実施を継続し、引き続き基礎的・基本的な学力の定着及び学習習慣の定着を図る。 図書委員会の活動とタイアップしながら、生徒の自主的な図書室の活用率を挙げていくとともに、教科指導等でも図書室の活用を促進していく。	小テストは回数を増やすことは効果があると考える。	3.0
	【中期】 言語活動の充実 【短期】 行事に向けて学級内での話し合い活動を活発に行う	・全ての授業に計画的、効果的な言語活動を取り入れる。 ・話合い活動を中心に特別活動を展開する。 ・行事のふり返りを各学級で話し合ってまとめる。	・教師の自己評価 ・生徒の自己評価 ・行事の反省アンケート	80% 70	70	70	B	コロナ禍において話合い活動に一定の制限があったが、話合いの仕方の工夫により各教科等で実施し、「理由を添えて話す」習慣付けを行ってきた。行事については実施の制限が多く、あまり推進できなかったが、人の意見を参考して思考を深める姿が見られ、今後より一層の推進が必要であると考える。	ICT等も活用しながら、話合い活動のより一層の充実を図る。 今後も行事の実施に当たり振り返りの話合い活動を行うなどして、生徒の学びの充実を図っていく。	言葉遣いの指導は機会ある毎に行うとよい。	3.0
豊かな心の育成	【中期】 思いやりのある生徒を育ていじめを撲滅する 【短期】 道徳教育の充実を図る	・心に迫る教材の開発と活用を推進する。 ・ローテーション授業を行い道徳の授業を充実させる。 ・連絡票を活用して教育相談機能を充実させる。	・教師の自己評価 ・生徒の自己評価 ・生徒へのいじめ・生活アンケート調査	80% 50	85	68	B	教育相談部会において各学年担当及びスクール・カウンセラー、市教育相談室と連携しながら生徒への支援を検討し、実施することができた。 道徳授業については、教科書を中心としてローテーション授業を行い、教員が替わることで生徒に多様な価値観を提示し、多面的・多角的に考える姿勢を養うことができた。	不登校生徒の対応について、校内研究に位置付けて対策を研究し、実践していく中で充実を図る。 道徳授業において対人関係の充実はかるについて指導するとともに、基礎学力の定着の徹底を図ることで自尊感情・自己肯定感を高めていく指導を教科等の指導の中で行っていく。	登校生徒、教室には入れない生徒の個別指導にもっと時間がとれるとよい。	2.5
	【中期】 生徒の自主性・自律性を高める 【短期】 生徒主体の達成感のある行事の創造	・生徒実行委員を中心に、一人一人が役割をもって行事運営を行う。 ・生徒会朝礼で、自治活動の活性化を図る。	・教師の自己評価 ・行事の振り返り作文 ・生徒委員会の反省 ・保護者の学校評価	80% 72	85	79	B	「生徒がつくる行事」を標榜し、実行委員会を主体として生徒が自ら行事の運営に携わり、自己有用感、自尊感情を高めることができた。 委員会活動においても生徒がよりよい活動を自分たちで考え、行動する姿が見られた。	行事の実行委員会が生徒主体で進められるよう、指導の充実を図っていく。 委員会活動の適正かつ充実した実施を図るための、教師からのビジョンの提示とサポートの充実を図っていく。	コロナ禍にあって行事の係活動などよく行っていた。	3.0
	【中期】 一人一人を大切にする生徒指導の実践 【短期】 特別支援教育の充実	・不登校や特別な支援を必要とする生徒に関連機関と連携しながら組織的に取り組む。 ・特別支援教育の手法を生かした学級経営や教科指導を実践する。	・教師の自己評価 ・保護者の評価 ・地域関係者の評価	80% 70	85	78	B	不登校の生徒への連絡体制や外部機関との連携体制の構築、個別対応の仕組みの検討などを行うことで、一部生徒は再度学校に登校し、別室または教室での授業に参加できるようになった。	不登校の原因を分析するとともに、必要に応じて外部機関と連携し、本人及び保護者を支えて登校を促していく体制を構築していく。 ICT等を活用し、生徒への学びの保障を実施していく。	教室に入れない生徒などもう少し話ができるとよい。	2.5
健やかな体の育成	【中期】 体力の向上 【短期】 持久力の向上を図る	・体力向上月間を設定し、小学校と連携してランニングウォーキングイベントを実施する。 ・運動部活動の活性化を図る。	・新体力テスト ・生徒の自己評価 ・イベントへの参加率	80% 70	70	70	B	ランニング・ウォーキングには多数の生徒・教員が参加した。教員が取り組む姿が生徒の取組の啓発にもなっていた。 運動部活動についても感染症対策を行いながら活動の継続を行うことで、体力向上の一端を推進することができた。また、授業を通して全体として投力を伸ばすことができた。	運動部活動以外の生徒へも運動機会の提供を図るため、ランニング・ウォーキングを継続して実施する。また、その他の運動機会の設定について検討していく。 運動部活動の活動を学校として支援していく。	ランニング・ウォーキングは体力向上になると思う。 運動部活動はよく行っていたと思う。	3.0
	【中期】 健康を自己管理できる生徒の育成 【短期】 健康意識の向上を図る	・感染症対策を行う新しい日常の中で、自分や他人の健康を守り、互いを思いやる生徒の育成を推進する。 ・栄養教諭による講習会の実施。 ・給食後の歯磨きの実施。	・教師の自己評価 ・保健委員会の調査 ・生徒の自己評価	80% 75	90	83	A	感染症対策の充実及び徹底を行うことで、インフルエンザの罹患率が0%となった。また、新型コロナウイルス以外の疾病への罹患率も下がった。 栄養教諭の授業を聞くことで、生徒は自らの健康に関心をもち、健康保持を心掛けるようになった。	新型コロナウイルス感染症への感染・拡大防止に引き続き努めていくとともに、生徒一人一人が自らの健康管理の充実を図ることができるよう、指導を継続していく。 給食後の歯磨きについては、衛生環境を考えながら指導の充実を図る。	教員の給食後の歯磨きしている姿を生徒に見せるとよい。	2.5
※学校裁量	【中期】 地域・保護者と連携した学校運営 【短期】 地域・保護者の教育力を活用する	・保護者による家庭学習の点検・確認の推進・実施を促す。 ・英語や漢字検定試験の監督、面接官に学校運営協議会委員・地域人材を活用した教育活動を充実させる。	・地域関係者の評価 ・保護者の評価	80% 60	65	63	B	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、学校公開の縮小・中止を行ったため、学校の様子を見ていただいたり連携していただいたりする機会が少なかった。 その中でも各種検定、地域未来塾等で地域人材の活用を図り、生徒の健全育成を進めることができた。	家庭学習についての保護者への協力依頼及び情報提供の充実を図り、学校と保護者で連携して生徒の家庭学習の一層の推進を行う。 感染症対策の徹底を図った上で、地域人材を活用した学習教室等を計画的に実施し、特に習熟の程度の遅い生徒に対する学習機会の保証を行う。	コロナ禍で各役員と学校の関わりが少なくなったのが残念である。	2.0
	【中期】 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う 【短期】 道徳教育の充実を図る	・物事を多面的・多角的に捉えて考え、議論する道徳教育の充実を推進する。 ・指導法の工夫による。道徳授業における生徒の心を耕し道徳性を高める指導の充実を図る。	・保護者の学校評価 ・生徒の自己評価 ・教師の自己評価	80% 80	100	90	A	教員全員による道徳ローテーション指導により、多くの大人の様々な考え方を生徒に提示して多面的・多角的な視点を与え、様々な価値について自分のこととして捉え考えさせることができた。また、内容だけでなくICTの活用、話合いのさせかた等について研究を行い、指導法の工夫・改善を行うことで、生徒がより主体的に授業に参加するようになった。	道徳の指導体制が軌道に乗り、生徒が主題的に取り組む態度が見られるようになったことから、一定の成果が上がったものと考え、継続して指導を充実させていく。 効果的な教材・教具、指導法について、これからも検討を重ねていく。	〇　タブレットの活用法を研修してほしい。	2.5
	【中期】 個に応じた指導の充実 【短期】 特別支援教育の理解と実践	・特別支援教室（サポート教室）の活用を推進する。 ・巡回指導員、専門員、心理士を活用した特別支援教育の充実を図る。	・生徒の自己評価 ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価 ・保護者の評価	85% 70	92	81	A	サポート教室と特別支援教育コーディネーター、専門員の連携の充実を図り、学校生活支援シートの内容を見直し、生徒情報の共有を深め、個に応じた支援を進めることができた。また、巡回指導員とコーディネーター、担任が情報共有することで、通常学級の生徒に対しても個に応じた指導の充実を図ることができた。	年度当初に学校生活支援シートの内容を確認し、個別指導計画作成において、必要な支援とその方法について担任、教科担当が共通理解を図っていく。 巡回指導員のアドバイスを踏まえて通常学級における個に応じた指導の充実を図っていく。	〇　サポート教室はよく活用していたと思われる。	3.5
										平均値	2.8